

## H20 調査より大幅に貨物量が増加

### “全国輸出入コンテナ貨物流動調査”

#### ■5年毎に行われる実態調査

我が国発着の国際海上コンテナ貨物の流動を把握するため、5年に1度調査を実施しています。今回は昨年11月の1ヶ月間に通関申告が行われた海上コンテナ貨物が対象です。

#### ■大きく伸びている貨物量

前回の平成20年に比べて、輸出で約37%、輸入で約33%、全体で約34%と大きく伸びており、これまで最大の貨物量となっており、物流におけるコンテナ貨物の重要性が増々高くなっています。

#### ■対アジア地域が大きな伸び

コンテナ貨物をやりとりする相手地域別に見ると、やはりアジア地域が最大の相手

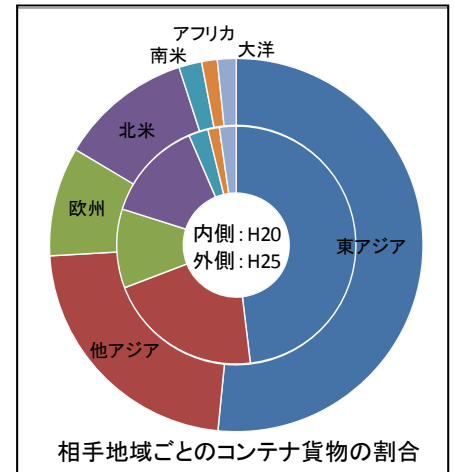
国であり、4分の3を占め、その割合も増えています。アジア地域との交流の深化、拡大が見てとれます。

#### ■欧州方面トランシップ率は上昇

北米方面へのトランシップ率は微減の12.3%と上昇に歯止めがかかったが、欧州向けトランシップは24.6%と大幅に上昇しています。アライアンスの変化等があり、欧州方面の基幹航路便数の減少に影響していると考えられます。

国土交通省では国際コンテナ戦略港湾施策を更に深化・加速させ、基幹航路の寄港増加を目指しています。

今後、北九州港の取扱量拡大に向けて利用実態を把握して参ります。



※詳しくは国土交通省 HP を参照ください。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/port03\\_hh\\_000018.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/port03_hh_000018.html)

## 港湾取扱貨物量 5年ぶりに1億トン突破、

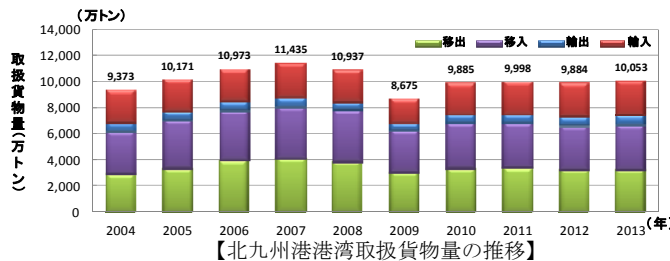
## 北九州空港の利用は開港以来最高

### 北九州港の利用状況

#### ■港湾取扱貨物量等の状況

北九州港港湾統計として、平成25年度取扱貨物量等が北九州市より発表されました。

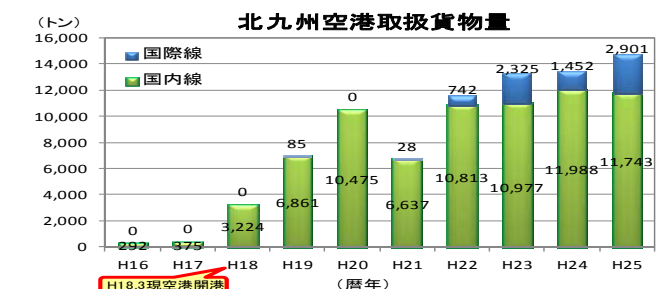
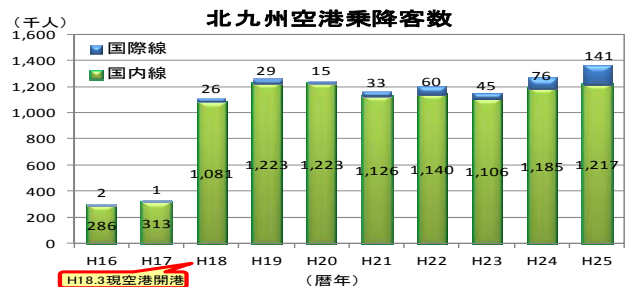
海上出入貨物取扱量は平成20年以来5年ぶりに1億トンを超え、全国5位。なお、コンテナ取扱貨物量は、微減となっています。



### 北九州空港の利用状況

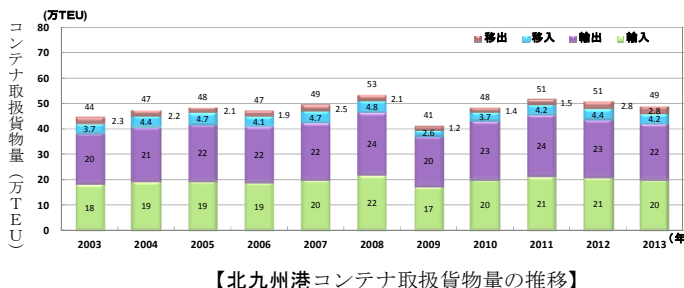
#### ■航空旅客・貨物の状況

航空局より平成25年空港管理状況調査が発表されました。航空旅客・貨物ともに利用数は、開港以来最高。特に貨物は、平成25年から国際定期貨物便が就航した事により大幅な増加となっています。



※詳しくは国土交通省 HP を参照ください。

[http://www.mlit.go.jp/koku/15\\_bf\\_000185.html](http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000185.html)



※詳しくは北九州市港湾空港局 HP を参照ください。

[http://www.kitaport.or.jp/jap/data/report\\_ym.html](http://www.kitaport.or.jp/jap/data/report_ym.html)

# 北部九州のエネルギーを支える“ひびきLNG基地”

～大型LNG船 初入港～

## ■北部九州のエネルギー供給拠点

「ひびきLNG基地」は北九州港響灘地区の産業用地に建設された液化天然ガス(LNG)の供給基地です。従来利用されてきた福岡市と北九州市の工場を集約し、北九州地域だけでなく、福岡市や筑後地域など、北部九州を広くカバーするエネルギー拠点となります。

## ■響灘の大水深航路泊地を活用

大規模な基地を建設するためには広い産業用地と世界最大級の大型LNGタンカ

ーが就航できる施設が必要となります。専用棧橋が新たに整備されましたが、既に整備されているひびきコンテナターミナルにつながる大水深の航路や泊地を利用して入港することになります。

## ■大型化によるコスト削減効果

震災以降のエネルギー調達の変化等もあり、今後のLNGの需要は拡大が見込まれています。世界最大級のLNGタンカー就航による大幅なコスト削減は、地域の産業に与える効果も期待されています。

7月31日、全長280mの大型タンカーが入港し、ソフトボール場が軽く収まる大きさの18万kLの貯蔵タンク2基にLNGが移されました。今後、試験が行われ、11月の本格運用を迎えます。



響灘地区に入港する大型LNGタンカー

# “地中海のみなと・クルーズ”

～海外のみなとを訪ねて・吉本技官～

## ■クルーズによる港のにぎわい

太陽ふりそぐ地中海・イタリアの海辺について一言。

去る5月下旬、福岡空港から成田経由でイタリア、ローマ空港まで約13時間の初めて経験する長旅。最大の目的は映画「冷静と情熱のあいだ」の舞台ともなった世界遺産のあるフィレンツェでしたが、その他にも水の都といわれるベネチアやナポリなどの港湾都市も訪れました。

それらみなとでひとときわ目についたのは、地中海を巡るクルーズ船の数々でした。10数万トンの乗客数約4,000名の超大型クルーズ船をはじめ、大小たくさんのクルーズ船を見ることに驚きを覚えました。

世界の三大美港と称えられるナポリ港は小高い丘に張り付いた街並みやヴェス

ヴィオ火山をバックに、陽光漂うナポリ湾にあります。陸側にはたくさんの遺跡や観光地がありますが、こうした海辺の情景を見ていると海からアクセスすることがごく自然なスタイルであることが、ここ地中海にきて初めて理解でき、庶民的な旅の手段のひとつとして船旅が選ばれる理由が分かりました。日本にも外国船籍のクルーズ船が進出し、手頃な料金も相まって、カジュアル感覚のクルーズも広まりつつあるようです。本場、地中海やカリブ海とはいかなくても、日本にも良いところ、良いみなどはたくさんあります。まずは、国内でも体験してみたいかがでしょうか。

そして、北九州港にも多くのクルーズ船が寄港するように、北九州の魅力をPRしていきましょう。



ナポリ港に停泊する大型クルーズ船とヴェスヴィオ火山

## ■クルーズ船の門司港寄港

この10月18日(土)には、フランス船社のプレミアム級クルーズ船「ロストラル」が門司港に寄港します。200名余りの乗船客数とそれほど大きな船ではありませんが、ゆったりと贅沢に船旅ができる船だそうです。歓迎と併せて、その雰囲気味わってみてはいかがでしょうか。

# 新たなメンバーで取り組んでいます

～中道所長・新規採用中村技官～

## 所長の中道です

所長の中道です。この4月から北九州港の整備事業を担当しておりますが、平成19年から約2年間、関門航路の所長として、航路整備及び航路浚渫土砂の処分などの実施に携わったことがあり、5年ぶりの北九州勤務となります。



当時は、北九州空港が開港して間もない時期であり、新若戸道路も沈埋箇の据え付けが始まった頃であったと記憶しております。そして現在、その特徴を活かした「Sea & Air」を行うなど、国際貨物便航路も就航するに至った空港や沈埋トンネルによりアクセスが向上した響灘地区など、北

九州の港湾空港の発展を実感しました。

さらには臨海部の産業用地に多様な企業の立地が進んでおり、モノづくりの街北九州の底力が見られます。

私も直轄事務所は、モノづくりの街を支える交通インフラの整備を確実に、そしてなるべく早く提供できるように進めて参ります。併せて、港湾施設の適切な維持管理更新を行い、利用者の方々使いやすい港づくりを行って参りますので、みなさまのご支援、ご協力をお願い致します。

## 22歳、中村です

4月に配属されたのは、北九州空港や新門司沖土砂処分場の整備を担当する第二工務課でした。



九州の南部球磨川や鹿児島で育った身としては、北九州空港なにも、といったところでしたが、初めて空港島に立ったときに、そのスケールの大きさを実感し、同時に誇りに思える仕事に携われる喜びが湧きました。また、空港は関門航路の浚渫土砂等によりできた埋立地を有効活用したものであったり、新たな技術を開発して効率的な土砂処分が行われるなど、創意工夫に土木技術者の粋を感じました。土木技術者の一人として、また、新人ならではの視点で物事を捉えて、国民のためになる社会基盤の整備に貢献していきたいと考えています。

せっかく海辺で暮らしていますので、趣味の釣りも楽しみたいと思っておりますが、まずは業務をしっかりこなして、早く一人前といわれるように努力して参ります。これからもよろしくお願ひいたします。

## 『編集後記』

- 今年の夏は青空が見えない日が多く、広島地域をはじめ、豪雨による大きな災害が発生しました。被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。
- 予期せぬ災害が多いのかもしれませんが、常日頃からのちょっとした防災意識があれば防げる被害もあると思われまます。これから台風シーズンに入ります。ちょっと身の回りをチェックしてみませんか。
- 「北九港&空NEWS 第6号」を発行しましたので配布させていただきます。